

新潟焼山火山防災マップ

融雪型火山泥流・積雪期の避難計画



平成 27 年 3 月
(平成 28 年 6 月改訂)

火山の異常情報の通報・避難活動に関する通報・救援

糸魚川警察署	☎ 110	又は	☎ 025-552-0110
糸魚川市消防本部	☎ 119	又は	☎ 025-552-0119
糸魚川市役所	☎ 025-552-1511		
新潟県防災局危機対策課	☎ 025-282-1638		(平日日中)
	☎ 025-285-5511		(夜間休日)
新潟地方気象台	☎ 025-281-5871		

「新潟焼山火山防災マップ」のお問合せ

糸魚川市消防本部 消防防災課 ☎ 025-552-2311

火山防災マップ(融雪型火山泥流の想定)

新潟焼山は1773年の噴火以降、早川流域の居住地域まで到達するような大規模な噴火は発生していませんが、1974年の水蒸気噴火後も、たびたび小規模な水蒸気噴火が発生し、今でも山頂部東側斜面からは噴気を上げている活火山です。

この火山防災マップは、「新潟焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画(案)平成24年8月」及び「新潟焼山火山防災協議会」における検討を基に、「積雪期の噴火で発生する融雪型火山泥流」の影響範囲と、住民の避難計画を示したものです。

このマップを読んで、火山活動が活発化したときに、冷静に行動ができるようにしておきましょう。

◆このマップの想定条件

- 火口の北側斜面からの噴火で50万m³規模の火砕流により積雪が融かされて発生する融雪型火山泥流の被害範囲を想定(50万m³規模の噴火では、火口から7km〔笹倉温泉手前まで〕程度の火砕流の到達を想定しています。)
- 火砕流の全量が焼山川方向に流入するものとして計算
- 融雪範囲内の斜面の積雪が概ね8mある状態を想定

避難計画（積雪期） — 住民避難の基本的な考え方 —

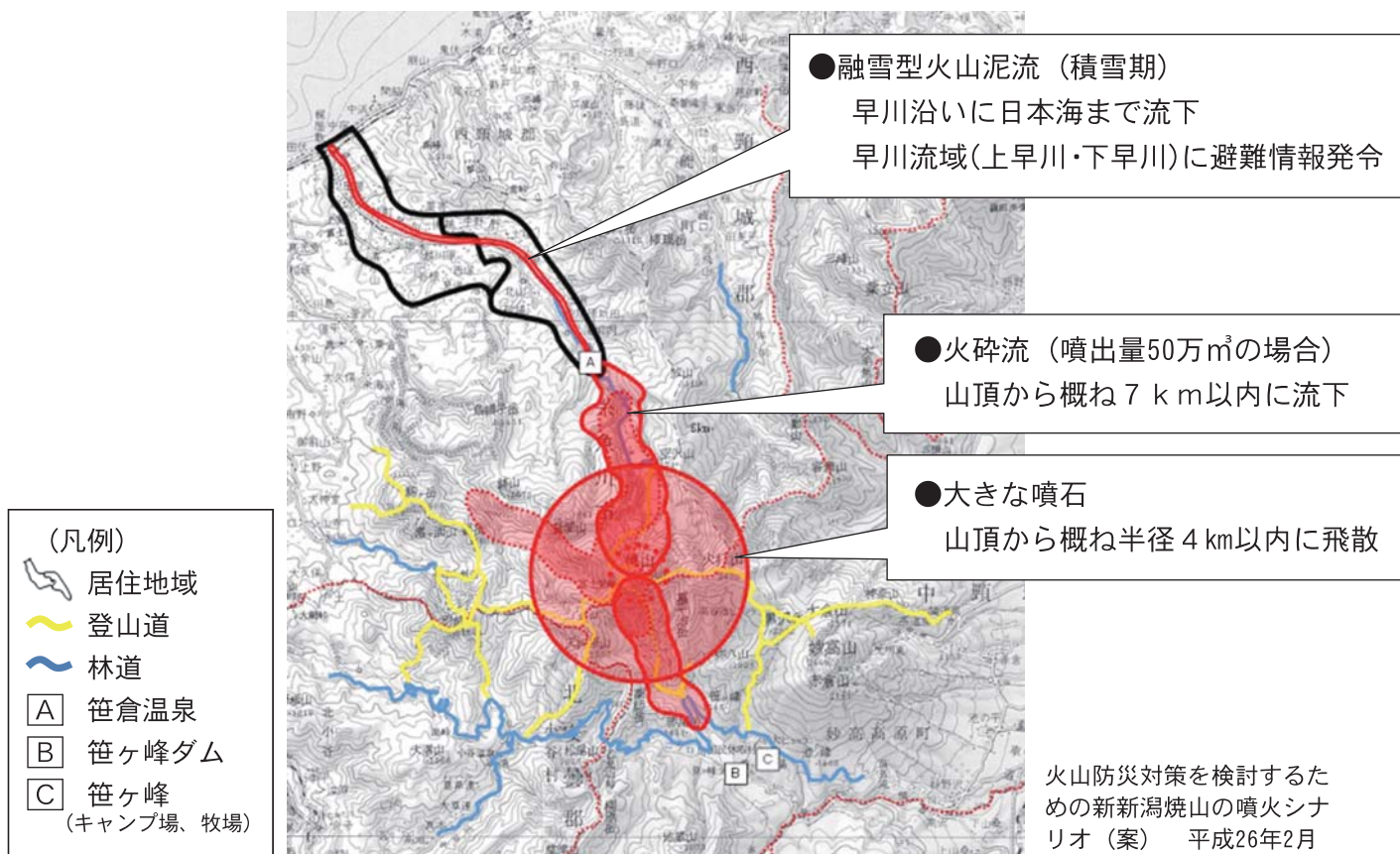
新潟焼山に積雪がある時期（概ね12月初めから5月末まで）に噴火が発生した場合には、融雪型火山泥流の発生を想定する必要があります。

居住区域に影響を及ぼす融雪型火山泥流の発生が予想される場合には、生命身体の安全を第一に、上早川・下早川の全地区を避難対象区域として避難情報（避難準備情報、避難勧告、避難指示）を発令することを基本とし、その後安全が確認された区域から避難情報の発令を解除していきます。

融雪型火山泥流は、その発生や規模を事前に予測することがきわめて難しいことから、火山活動の状況により、段階的な避難情報の発表が間にあわない場合や融雪型火山泥流からの避難に十分な時間を確保できない場合が想定されます。

そのような場合には、自らの判断で、直ちに地区内の河川沿いから離れた高台に一時的に避難し、身の安全を確保してください。

【参考：大きな噴石、火砕流および融雪型火山泥流の影響範囲】



新潟焼山の噴火警戒レベル

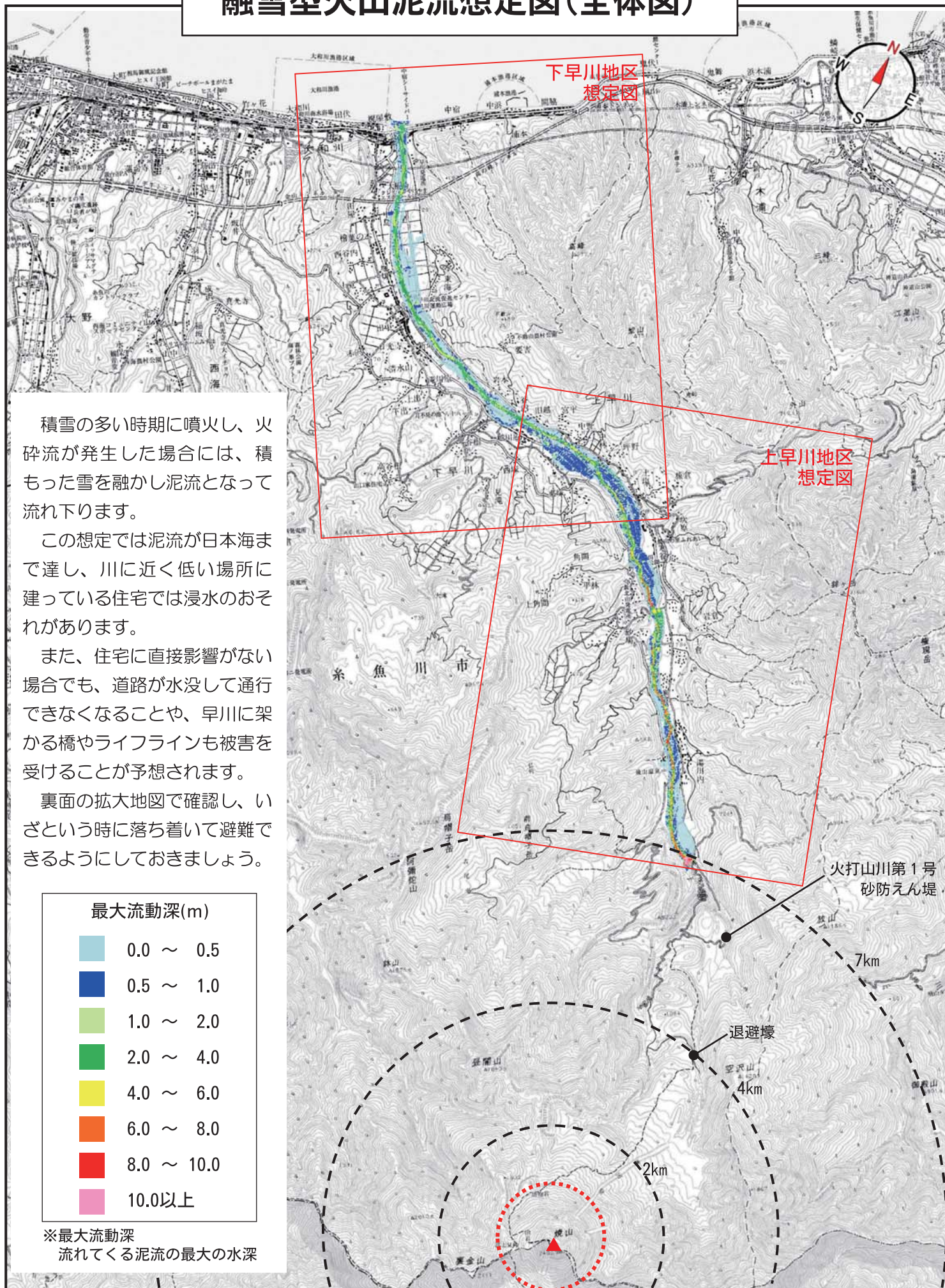
(平成23年3月31日運用開始、平成27年5月18日一部改正)

種別	警報等	対象範囲	レベル	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報（居住地域） または噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5（避難）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> マグマ噴火が発生し、火砕流、溶岩流、融雪型泥流（積雪期）が居住地域に到達、あるいはそのような噴火が切迫している。
			4（避難準備）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備、避難行動要支援者の避難等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 火砕流、溶岩流、融雪型泥流（積雪期）が居住地域まで到達するような噴火の発生が予想される。 火砕流、溶岩流が発生し、噴火がさらに拡大した場合には居住地域まで到達すると予想される。
警報	噴火警報（火口周辺） または火口周辺警報	火口から近くまで	3（入山規制）	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて避難行動要支援者の避難準備。登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	<ul style="list-style-type: none"> 山頂から半径4km程度まで噴石を飛散させる噴火が発生、または予想される。 居住地域に到達しない程度の火砕流、溶岩流を伴う噴火が発生、または予想される。
		火口周辺	2（火口周辺規制）	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	<ul style="list-style-type: none"> 山頂から半径2km程度まで噴石を飛散させる噴火が発生、または予想される。
予報	噴火予報	火口内等	1（活火山であることを留意）	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	<ul style="list-style-type: none"> 火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり

※ここでいう噴石とは、主として風の影響を受けずに弾道を描いて飛散する大きさのものとする。

全国110の火山で、「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」として、火山噴火予知連絡会によって選定された50火山のうち、34火山（平成28年4月現在）で、「噴火警戒レベル」が運用されています。（気象庁HPより）

融雪型火山泥流想定図(全体図)



積雪の多い時期に噴火し、火砕流が発生した場合には、積もった雪を融かし泥流となって流れ下ります。

この想定では泥流が日本海まで達し、川に近く低い場所に建っている住宅では浸水のおそれがあります。

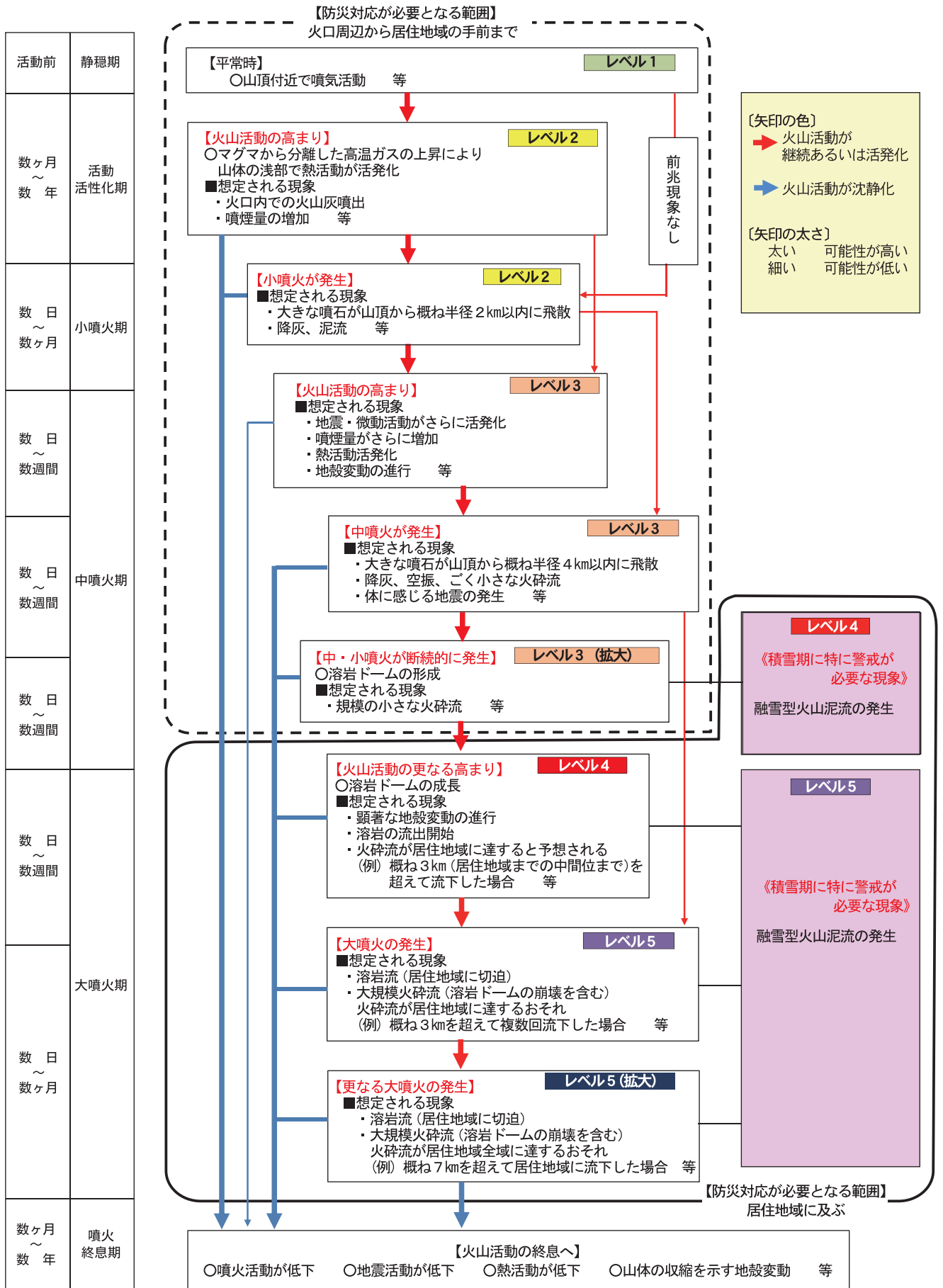
また、住宅に直接影響がない場合でも、道路が水没して通行できなくなることや、早川に架かる橋やライフラインも被害を受けることが予想されます。

裏面の拡大地図で確認し、いざという時に落ち着いて避難できるようにしておきましょう。

噴火シナリオ

(新潟焼山火山防災協議会で検討された噴火シナリオ)

過去の噴火実績やシミュレーション等を基に、噴火時の現象とその順序（時間の経過）、その影響範囲を整理したものです。



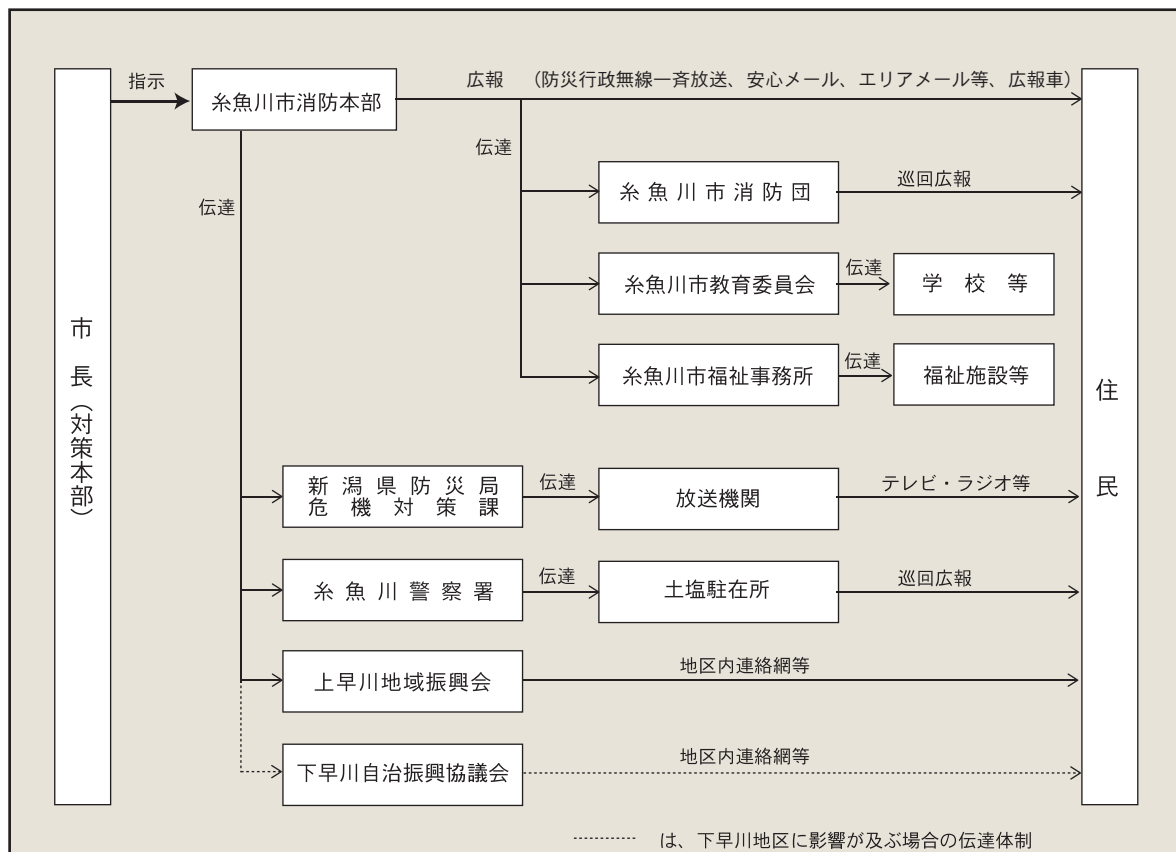
避難情報の発令基準

情報	噴火警戒レベル	状況
避難準備情報	4	居住区域に被害を及ぼす噴火又は融雪型火山泥流発生が予想される
避難勧告		
避難指示	5	居住区域に重大な被害を及ぼす噴火又は融雪型火山泥流が発生あるいは切迫している

※居住区域では、噴火警戒レベルが4又は5になると避難が必要になります。噴火警戒レベル3以下の場合には直ちに居住区域まで危険が及ぶわけではありませんが、登山・入山が規制されます。

避難情報の伝達方法

- ①防災行政無線による一斉放送（屋外スピーカー、戸別受信機）
- ②安心メール、緊急速報メール（エリアメール等）
- ③広報車による伝達
- ④放送機関への要請によるテレビ・ラジオ放送
- ⑤地区代表者等への電話又は直接口頭による伝達



噴火に伴う現象

融雪型火山泥流

噴火に伴う火砕流等が積雪を急速に融かし、発生した大量の水が周辺の土砂等を巻き込み泥流となって、谷筋や沢沿いをはるか遠方まで高速で流下する。最速では時速60kmを超える。



上野良野和村提供
十勝岳の融雪型火山泥流(大正15年5月24日)

土石流

噴火により斜面や谷の上流に火山灰が積もった後に雨が降ると発生する。流れ下る速度は、時速数10kmに達する。



土石流被害を受けた家屋
国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所提供

火砕流

火山灰や岩塊、軽石等の火砕物が火山ガスと混じり合い、高速で地表を流下する非常に危険な現象。

温度は600℃以上の高温になることも多く、最速では時速100kmを超える。



雲仙岳の火砕流(平成6年6月24日)

噴石・降灰

噴火に伴って火口から吹き飛ばされる噴出物で、噴石の大きさにより、風の影響を受けずに弾道を描いて飛散する「大きな噴石」と風に流されて降る直径2mm以上の「小さな噴石」に区別される。「火山灰」は直径2mm未満。



浅間山の噴石(平成17年8月4日)

溶岩流

マグマが火口から流れたもの。

流れる速度は遅く、徒歩で逃げることもできるが、1000℃前後の非常に高温のため溶岩の流れた場所では全てのものが焼かれてしまう。



伊豆大島噴火の溶岩流(昭和61年11月19日)

火山ガス

火口や噴気孔から噴出するガスで、二酸化炭素、硫化水素、二酸化硫黄を含む。風の弱い時などに噴気孔周辺の凹地などに溜まり、立ち入ると非常に危険。



火山ガスを大量に含む噴煙(三宅島 2002年1月)